

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 2 2	独立行政法人酒類総合研究所
題名（原題／訳）	
血液の流れと健康 —本格焼酎の機能性—	
執筆者	
美原 恒	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
醸協、2003、98（6）92-397	
キーワード	
血栓症、ウロキナーゼ、焼酎、日本酒	
要 旨	
<p>血栓症は日本の主要な死因の 1 つとなっている。血栓症になる要因としては高血圧、糖尿病などの生活習慣病が挙げられる。血栓症を予防する方法として、日常的に摂取する食品から納豆などに含まれるナットウキナーゼなどが有効であることが報告されているが、近年、焼酎に含まれる成分にも血栓症予防効果があることが明らかになった。人を用いて焼酎、日本酒、ワイン、ビール、ウイスキーのいずれかを摂取させると、焼酎を摂取した群で線溶酵素が増加しており、その成分としてウロキナーゼが挙げられた。次に、細胞を用いて、エタノール、焼酎を蒸留して残った成分（揮発残部）、日本酒の揮発残部を投与し、ウロキナーゼの分泌を測定したところ、エタノールそのものにもわずかであるがウロキナーゼ分泌が観察された。また、焼酎揮発残部では 58%以上の分泌がみられた。日本酒でも焼酎より低いが同様な傾向が観察された。</p>	